

NO.
144

令和7年12月1日

ひらつか青指だより

■編集・発行 平塚市青少年指導員連絡協議会 広報委員会 ■事務局 平塚市青少年課 〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9-1 TEL 0463-71-5950 FAX 0463-21-9738



勝原
地区

金目
地区

岡崎
地区

山下
地区

びわ
研修

浅間
祭

上段)山下地区 ドッヂボール
中段右)岡崎地区 お化け屋敷
下段)金目地区 おにごっこ



特集

みんなが笑顔になる 子ども大会

子ども大会は、明るい家庭づくり、地域づくりを目的に、家族ぐるみで楽しめるスポーツやゲーム、野外活動、その他レクリエーションなどの内容で、市内 28 小学校区にて開催されています。子どもたちの笑顔の花を咲かせるために各諸団体のみなさんと協力して実行委員会形式で実施しています。当日は、子どもたちの成長を感じつつ、保護者の見学もあったり、同じ地域で生活する人たちの顔が見られる機会にもなっています。昨年は 4,724 名

の子どもたちが子ども大会に参加しました。また、実行委員会には、青少年指導員をはじめ、多くの地域の方が役割を分かれ合い、1,116 人が携わってこの事業が実施されました。ある地域では、中学生ボランティアやジュニアリーダーズのみなさんも力強い手になっているようです。この号では、「この地区の子ども大会が知りたい」と話題の 4 地区の子ども大会をご紹介します。 参加人数・実行委員人数:令和 6 年度子ども大会 実施報告書調べ

山下地区

■ドッヂボール大会

近年、私たちは「競技ドッヂボール大会」と称して、令和 5 年度から続けて 3 回実施しています。指導は、競技ドッヂボールを専門に行っている海老名市のチーム「中新田ファイヤーズ」の小中学生の選手を招いて、基本練習から試合までをセットとして展開しています。

コロナ禍以前にも、「ドッヂボール大会」として、開催したこともありましたが、正式なルールに則った競技ということで、「遊び感」を主体にするものではなく、本格的な体験を通して「学ぶ場を提供する」という趣旨に転換しました。

当初、これまでの様にレジャー的な楽しみをもって参加するというイメージは払拭されたため、日常的に、スポーツや運動に携わっている児童に限ってしまうのではないかとの懸念もありました。本来、休日に、野球クラブやサッカークラブに所属し、練習が重なっている児童の参加は難しく、子ども大会は、特定なスポーツに関わ



っていない生徒の受け入れを考えて実施していました。

そこに、全国大会でも上位に君臨するチームを招くこと自体が、高い壁にならないかと思いました。「ボールが当たったら本当に痛い」、「そんな勢いのあるボールは取れない」等の心配が児童の心に芽生えるのではないかと懸念していました。しかし、実際に希望を募ったところ、これまでの参加児童数を切ることではなく、同規模で大会の運営を行う事ができました。

成果としては、①指導者が現役の教員であり、児童の自主性や意欲を無理なく引き出すスキルを持っていたこと、②午前中は未就学児と低学年、午後は高学年のグループに分けて活動することで、児童の成長に合わせて進めることができたこと、③一人ひとりについて見れば、練習から試合実践まで、時間を十分にとることができ、より知識を得、魅力や楽しさを体感することができたこと、④見守りのために集まった保護者も試合に参加することで、親子のつながりも感じることができたこと等があげられます。



終了後、保護者からの問い合わせで、翌年、チームに加入した児童も 2 名いました。

また、リピーターも一定数確保され、次年度、自信をもって活動している様子も伺えました。小 6 の児童のアンケート結果からも、中学生になっても参加したいとの意向も複数寄せられています。

課題としては、温暖化とともに活動時期の設定がむずかしくなったことです。6月初旬でも、体育館内は脱水症注意を示しており、検討を要するものと考えています。

今後も、活動に際しては、専門性を持った外部者支援の導入を図りながら、児童に「(一クラス上の)本物を体験する場」の提供を行っていきます。

岡崎地区

■お化け屋敷

7月 26 日、岡崎公民館にて、岡崎地区子ども大会、お化け屋敷、「恐怖の岡崎公民館 2025~暑い夏を涼しく過ごそう~」を、2 年ぶりに開催しました。

2 年前の前回は、岡崎地区青少年指導員として、初のお化け屋敷の開催となり、分からぬことが多い、長年、子ども大会でお化け屋敷を開催している、松延地区青少年指導員の方に、各種アドバイスを頂き、開催することが出来ました。

前回の経験を活かしながら、岡崎地区青少年指導員の子ども大会実行委員長を中心に、打ち合わせを何度も行い、協力しながら計画を立てました。

事前準備では、お化け屋敷の大道具から小道具を、中学生ボランティアと一緒に、楽しく手作りをしました。

当日は、会場内の暗幕や、会場の通路の仕切り、大道具、小道具、屋外テント等の設置を、地域の各種団体の皆さんと協力をしながら、円滑に行うことが出来ました。

お化け屋敷の開催中は、参加児童がお化け屋敷内で大きな悲鳴をあげ、その悲鳴に、お化け役の各種団体の皆さんとのテンションも上がり、相乗効果でタイトル通り「恐怖の岡崎公民館 2025~暑い夏を涼しく過ごそう~」となり、大成功の開催となりました。



開催後のアンケートでは、児童から、「怖かったけど楽しかった」、「お化け屋敷が終わって帰宅後、余韻でまだ怖く、お姉ちゃんが一緒にいないと眠れなかった」。中学生ボランティアから、「高校生になっても参加したい」。親御さんから、「児童たちが楽しむイベントだが、大人も楽しめた」等の声を多数

頂き、皆さんに楽しんでもらえて、本当に良かったと実感をしました。

片付けは、暗幕、会場の仕切り板、大道具、小道具、屋外テント等、当日の晚から翌日の午前中に掛けて行い、地域の各種団体の皆さんのご協力を頂き、事前準備から片付けまでを、一切無事故で行うことが出来ました。

各種団体の方々、中学生ボランティア、全ての協力を頂きました皆さんに感謝をいたします。大変にありがとうございました。今回のイベントを通して、地域の団結力の素晴らしさを改めて感じることができました。

児童たちにとって、大変に良い思い出になった、暑い夏を涼しく過ごせた、楽しい子ども大会になったと思います。

また当日のお化け屋敷の会場では、途中で怖くなり、リタイヤする児童がいましたので、今後は、低学年から高学年までの参加児童全員が、最後まで楽しめるイベントの検討が必要と感じました。



金目地区

■おにごっこ

去る6月9日、金目小学校にて「逃走中」をモチーフにしたおにごっこイベントを開催いたしました。テレビでも人気のある「逃走中」を取り入れたことで、子どもたちがわくわくしながら参加してくれるのではないかと思い企画いたしました。その結果、予想を大きく上回るたくさんの参加申し込みをいただき、子どもの参加者数は、なんと昨年の4倍、在校児童の半数近くにのぼりました。

今回の子ども大会の大きな特徴は、子どもたちを追いかける“ハンター役”を保護者の皆さんや、有志の金目小の先生方、地域の方々に担っていただいたことです。黒い服に身を包んだハンター役の皆さんが校庭を走り回る姿に、子どもたちは歓声を上げながら必死に逃げ回り、まさにテレビさながらの盛り上がりを見せました。



新型コロナウイルスの流行の影響による活動自粛期間中には、多くの行事を中止せざるを得ませんでした。そのため、地域での交流や青少年育成の場が減少し、イベントへの参加者も少しずつ減ってきていました。しかし今回の「逃走中」では、久しぶりに子どもたちの大きな声が響き渡り、活気ある雰囲気がよみがえりました。それは私たち指導員一同にとって大きな喜びとなり、地域活動の意義を改めて感じる事となりました。

また、もう一つ今回初めての試みとして、今まで小学校で配布、応募用紙で回収していた申し込み方法を、スマートフォンやパソコンで申し込めるようにしました。インターネットでの募集にあたっては、地域の有識者の方に、ボランティアで専用のQRコードやホームページを作成していただきました。私たちの力だけでは到底なしえなかつたことですので、快く引き受けて下さって本当にありがとうございました。申し込み集計の効率化のためにも、今後さらにスマートフォンからの応募が簡単にできるよう、試行錯誤していきたいと思っています。

その他にも、会場の準備や安全確保にご協力いただいた地域の皆さま、お忙しい中すすんでハンター役を引き受け下さった保護者や有志の方々のお力添えで、無事に楽しい時間をつくることができました。心より感謝申し上げます。

今後も子どもたちが安心して参加できる魅力的な活動を企画し、地域のつながりを大切にしながら、青少年の健やかな成長を支えていきたいと考えております。



■平塚市青少年指導員

青少年指導員は、自治会長又は町内会長の推薦を得て市長が委嘱しています。定員は333人、任期は1期2年で、神奈川県青少年指導員も兼務しています。平塚市では、小学校区ごとに地区協議会を設置し、28地区の協議会があります。各地区代表(理事)が集まり平塚市青少年指導員連絡協議会が設置されていて、各地区の活動の情報等を共有する理事会が定期的に開催されています。

『青少年の育成及び指導について深い理解と愛情をもち、育成活動に熱意を有する者』と平塚市青少年指導員設置要綱には謳われ、青いポロシャツや青いジャンバーを身につけて各地域で活動を展開しています。

平塚市 青指

勝原地区

■ボッチャ・モルック

私達、勝原地区青少年指導員は6月14日土曜日に勝原小学校体育館にてボッチャ、校庭にてモルックを行いました。

ボッチャは、パラリンピックでも行われ、元は脳性麻痺などにより運動能力に障害がある競技者向けに考案されたものですが、老若男女、誰でも楽しめる「地上のカーリング」とも言われる競技です。

モルックは、フィンランド発祥の競技で、木製の棒を投げて、12本あるピンの倒れ方で採点します。こちらも年齢や健康状態にかかわらず遊べますが、ボールを投げるボッチャと違い、円柱状の棒を投げる為、運の要素も入って来てスリリングなゲームを楽しめる競技となります。

当日は御客である子ども達が集まる1時間前に青少年指導員が集まり、準備を開始しました。体育館では、ボッチャのコートを粘着力の低い“養生用テープ”を貼って、また校庭では熱中症対策のテント設営、その他スコアボード、受付準備等を実質45分で完了させなければなりませんでしたが、青少年指導員、OBも含め12人で分担し準備完了ました。本番では、これに加えPTAの方々、中学生ボランティアの方々の力も御借りしています。

9時になり、子ども達を迎えると、勝原小学校校長先生の挨拶を頂き、ボッチャの練習開始です。すると、まだ試合は始まっていないと言うのに、各コートからは歓声や笑い声が聞こえました。練習を終え、試合になると、その歓声は更に大きくなり白熱したものになりました。10時30分からは校庭でモルック競技です。この競技は手玉(短い木製の棒)を投げてピン(木製)を倒すので、当たった時、ボーリングのストライクをとった時の様な音がします。子ども達はこの音に興味津々で、それぞれ投げ方を工夫したり、力強く投げてみたりと真剣に遊んでいました。尚、各競技は小学1年生以下の子も遊べる様、難易度を低くした独自のルールにしてあります。

11時30分になり、全プログラム終了です。子ども達は名残惜しそうにしていましたが、お菓子の入った参加賞をもらい帰って行きました。事故も熱中症も無く、安全にイベントを終了させることができました。校長先生を始め、PTA、中学生ボランティアの方々、関係した全ての方に感謝申し上げます。





上段左)
びわ青少年の家の野外炊事場で恒例の記念撮影
上段中)
チームに分かれモルックに挑戦
上段右)
美味しいくなれと思いを込めたバームクーヘンづくり
二段)
年輪の層がきれいに出来上がったバームクーヘン
左下)
表彰された古木さん(左)と大和田さん(右)、相馬会長

びわ 研修

10月18日(土)びわ青少年の家にて研修会が行われました。今年は、モルック＆バームクーヘンづくりに挑戦しました。

モルックは、フィンランド発祥の木の棒を投げて、数字が書かれたピン(スキットル)を倒すスポーツです。先に合計 50 点丁度を目指して、50 点を超えると 25 点に戻るというルールが特徴です。が、研修会では 6 チームに分かれ、一人 2

投して得点の多いチームが勝利するという特別ルールで対戦しました。室内用のピンは柔らかい素材でできており、とても軽いです。そのため、最初はモルック棒を投げる力加減がわからないチームが多かったようです。チームの仲間は、ほぼはじめましてのメンバーで構成されていましたが、意見を出しあって一丸となって高得点を目指している姿には、熱いものを感じました。

バームクーヘンづくりは、モルックのチーム、2 チームで一本のバームクーヘンを作りました。ホットケーキミックスの生地を竹に塗りながら焼いていく手作り体験です。①生地を竹に塗る②竹の両端を二人で持ち、回転させながら焼く③焦げ目が付くくらい焼けたら再び生地を塗り焼く。これを繰り返すとバームクーヘンの特徴である年輪のような層が出来上がります。バームクーヘンは 3 本つくりました。焼くときに生地が流れてしまったり、なかなか焦げ目がつかなかったりと苦戦しましたが、写真を見てもわかる通り、どのチームもキレイな層ができる、とてもおいしかったです。

『バームクーヘン』には、樹木の年輪のような断面が繋栄や長寿を連想させ、年輪を重ねていくように…という意味を持つ縁起の良いものとされています。

私たち『青少年指導員』にとって“層”は、体験や活動であり、何重にも重ね共に成長できる仲間。そんな仲間と貴重な時間が過ごせました。ありがとうございました。

育成委員会 飯島

県 大会

11月29日に第56回神奈川県青少年指導員大会が「～楽笑～“楽しく”つなげよう人と人“笑顔”で広げよう 地域の輪と和」をテーマに茅ヶ崎市民文化会館にて開催されました。令和7年度神奈川県青少年指導員表彰では62名が表彰され、平塚市からは古木達哉さん(松原)、大和田マイ子さん(大原)が受賞しました。講演は、たきれいこ氏による「世代を超えて、言葉を超えてあなたの笑顔が心をつなぐ」と題して笑顔のコツを教えていただきました。事例発表では伊勢原市と大磯町の青少年指導員連絡協議会のみなさんの地域の特性に合わせた活動紹介がされました。次年度は川崎市で開催が予定されています。



浅間祭

11月8日、9日に第32回浅間祭が青少年会館周辺で催されました。青少年会館の閉館に伴い2025年が最後の浅間祭です。初日は天候にも恵まれ多くの方がお祭りに訪れました。二日目

は小雨が降る天気で残念ながら終了時刻を早め14時の終了になりました。

青少年指導員は例年通り「やきとり」「バンバンボール」販売と「ボーリング」「輪投げ」のミニゲームで出店しました。焼き鳥は、香ばしい薫りがお客様を呼び込みました。ミニゲームでは、小さなお子さまや小学生、中学生が訪れ、ボーリングのボールを勢いよく投げてたくさんのピンを倒したり、輪投げでは、5つの輪を棒にパーカーに掛けたり、みんな楽しそうでした。バンバンボールは、身体の大きさに合わせて膨らませたボールを嬉しそうにそして大事そうに受け取る姿が印象的でした。

長年、青少年指導員では浅間祭に出店してきました。出店するにあたり、伊川真理さん(松延)には、材料などの準備から備品の貸し出し、当日の運営等についてご尽力をいただきました。紙面を借りてお礼を申し上げます。各理事のみなさんも当日の運営にお力をいただきありがとうございました。

子どもたちや来場されたみなさんが、人と触れ合う楽しさを感じてくださったのであれば、浅間祭に携わることができた私たち青少年指



年指導員にとっても、本当に素敵な時間だったと感じています。これからも各地域で、青少年指導員の笑顔が多くの人たちをつなぐきっかけの一つになるといいですね。



広報委員のつぶやき

青少年指導員の活動を含め、ボランティア活動への参加の動機は何だったろうと考えると、「地域に貢献したい」「青少年育成に関わりたい」「見ていると楽しそう」「頼まれたから」など、みんな様々な思いで活動を始めたと思います。私も振り返ると「青少年指導員なんてどう？って頼まれた」のが活動の始まりと思い出します。青少年指導員を受けて 14 年が経ち改めて「自ら、メンバーと楽しく活動する」が一番大切だと感じています。子ども達の笑顔を引き出すべく、これからも楽しく笑って活動していきたいです。『楽笑！』

なでしこ地区 田邊 貴也